

一可光陰不可軽

人国記

かつて、マツダの大衆車、小型車といえは「ファミリア」でした。それまでのバンやワゴンタイプに加え、セダンの登場が昭和39年。トヨタ「カローラ」や日産「サニー」よりも先だったんです。

その後、世界中の小型車がエンジンを前に置き前輪を駆動させる「FF」形式に移行する中、わが「ファミリア」は、エンジンを前に置いて後輪を駆動させる「FR」形式のまま、さまざまな事情で世界の流れから取り残されていきました。

室内が広くなり、部品も少なく済んで低コストとなるメリットがあるFFに、小型車が変わっていくのは当然。「ファミリア」もようやくFF化に踏み切ることになり、そのレイアウトを担当しました。

貴島 孝雄 (62) ⑬

元マツダロードスター主査

「サニー」ではなかった。合言葉は「フォルクスワーゲンゴルフよりもいいクルマを作ろう」でした。

私たちのグループは、操縦性の向上につながるサスペンションを追究。クルマが曲がる時、走行方向に対してタイヤが内向きにぐっと踏ん張る「トイン」にコントロールすることが大事だ、という観点を国内メーカーではいち早く取り入れました。

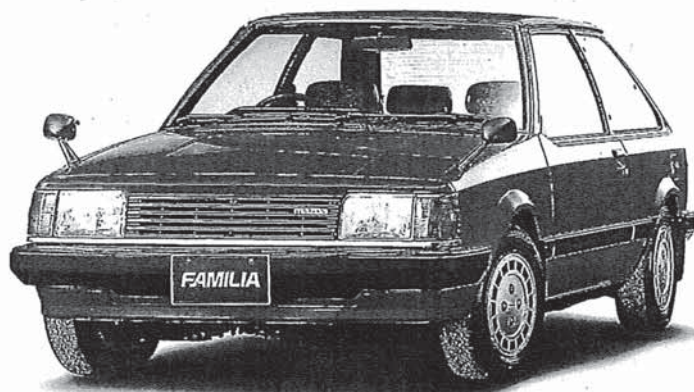
その結果、タイヤが何らかの刺激を受けたら、サスペンションが荷重を受けてたわんだりすると、自然にタイヤが内向きになる「ダイナミックトローントロールシステム」を開発したんです。

いざ発売されると、狙い通り若い世

最後発売FF車が大ヒット

代に熱い支持を得て大ヒット。イメーシカラの「赤いファミリア」が時代を象徴する存在になりました。月間販売台数でも1万3千台を超える月があったと思います。

ただ私は、正直に言つとFFが嫌いだったし、今も好きではありません。販売上、小型車のFF化は必然ですが、やはり合理的に妥協を重ねて作るという側面は否めず、「楽しくクルマを操る」という点ではFR車にかなわないので…。



大ヒットした「赤いファミリア」。第1回日本カーオブザイヤーにも輝いた(マツダ提供)

るなど、それまで歯が立たなかった「カローラ」を何度も抜き、生産開始から27カ月で100万台を突破したというのは世界最速記録だそうです。当時、マツダは第2次石油ショックの影響で2度目の経営危機に陥っていたんですが、苦境を一気に回復させる原動力にもなりました。

さらに、このクルマは記念すべき第1回日本カーオブザイヤーを受賞。「スポーティーなサスペンションや安定した操作性」が評価されたとのこと。で、「シャシー屋」としてうれしい限りですね。もちろん、精悍な容姿や内装の快適性なども評価の大きな要素だったと思います。



九州・山口

産経新聞九州山口版は月々購読料3000円の朝刊紙です。九州山口地域でも、ご自宅や会社に配達いたします。申し込みは下記のフリーダイヤルか、専用サイトで。

ニュースのご連絡は九州総局

TEL 092(741)7088
FAX 092(726)2572
kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通
5-23-8
サンライトビル3階

山口支局

TEL 083(923)3333
FAX 083(923)3334
yamaguchi@sankei.co.jp

〒753-0074
山口市中央3-6-2

購読のお申し込みは
☎ 0120(34)3733
www.sankei9.com

販売のお問い合わせは
TEL 092(741)2323

広告のご用は
TEL 06(6633)9474